

市の考えを問う!! 市政に関する

一般質問

今定例会では、12月17日、18日の2日間、9人の議員が保健・福祉行政をはじめ、建設、農業、一般行政、教育など市政全般について、市長や教育長の見解をただしました。

なお、原稿は質問者が作成し、文責は本人にあるものとして、質問・答弁の要旨を掲載しました。



広域連合は

問 自治のかたちが行政側の理論で議論され、住民側からの議論がなされていないと思う。このような観点から第3回定例会以後の協議会の協議経過から5点について質問をする。①4事業に決定した理由②一部事務組合と広域連合の違いは（住民側からみての）③広域連合となる事で住民サービスがどう向上するのか。④負担金割合は。⑤発足に向けての基本的な考え方は。

答 ①共通する事務の集約によって円滑化と経費並びに量的縮減が図られる。②広域的な行政ニーズに柔軟かつ複合的に対応できる。権限委譲が受けられる。住民の直接請求が可能であり、新たな拡大によりサービスの向上も可能である。③権限事務を受けける事が可能となるため今後充分検討する必要がある。総体的にはサービスの向上が期待される。④共通して掛かる経費は均等負担で検討している。運営経費は従量割、財政力割、均等割りなど適正な負担となるよう協議を継続する。⑤広域連合を拡大していく可能性を秘

めている。将来、富良野圏域5市町村は一つである。

大栗 民江

〔公明党〕

オストメイトの方々へ
配慮したトイレ整備の考えは

問 身体の内側に障がいをお持ちの方は、元気なのか病気なのか外見ではわかりにくい。様々な困難に直面している。オストメイトと称される人工肛門・膀胱装着者は、日常で抱える悩みも多く、人知れず苦勞しながら社会復帰に励んでいる。安心して外出できるように対応トイレを設置する考えは。既存のトイレに後付できる洗浄水栓器具もあるが見解は。福祉のまちとしての取り組みを進め、障がいをお持ちの方も各地からお越しいただくためにも取り組んでいくべきと考えるが見解は。
答 膀胱や直腸に障がいを持っている方が、相当数在住されている。オストメイトの方が地域活動や外出する際に、大

菊地 敏紀

〔民主クラブ〕

新農業計画は

問 第二次農業計画が平成20年で終了するため、条例の一部を改正し農政審議会を設置し、新たな農業計画策定に向けて審議するとの事である。計画は中期的な施設の目標を示し平成21年には富良野市食料、農業、農村基本条例をすると聞いている。策定にあたって4点について質問をする。

①農政審議会に改めた理由。②富良野農業の現状分析は。③富良野農業の今後の方向性は。④計画推進の方策は。

答 ①情勢の変化に伴い農業生産の進行だけでなく消費や地域という視点を取り入れる必要がある事からである。②農業人口の減少で生産力の低下、規模拡大による小麦、飼料作物の増反、主力作物の減少、生産所得の伸び悩み、集落機能の低下等を認識している。③労働力の減少に伴う生産力の低下、集落機能の低下や所得確保の方策など農政審議会に提案している。④自助



農村風景

共助、公助を基本として新たな農業計画に基づく総合的な施策を推進する責務があると考えている。